



## 社 地域高齢者の就業確保に総合的に取り組む 団法人美郷町シルバー人材センター

美郷町シルバー人材センターが、社団法人として県に設立の認可申請をすることに先だて、3月16日、六郷老人福祉センター「清水苑」で、社団法人としての設立総会を行いました。

総会では、会員ら約100人が出席して同センターの定款や事業計画・予算案などを原案のとおり可決し、設立代表者に高橋優さん(千屋中部)を選任しました。

同センターは今後、県の認可を待ち、地域高齢者退職者等の就業に関する事業を主体的に行い、健康で働く意欲のある高齢者が、その経験と能力を生かして地域社会に参画できるよう総合的な取り組みを行います。

## 美 一投一投が真剣勝負です 郷町ユニカール大会

町教育委員会主催の美郷町ユニカール大会が3月17日、美郷総合体育館リリオスで行われました。

ユニカールは、トリノ冬季オリンピックで注目されたカーリング競技に似たスポーツで、専用マットの上でストーンを滑らせ点数を競うニュースポーツ。誰にでも気軽に楽しむことができ、町のニュースポーツ教室のメニューにも組み入れられています。

この日の大会には、3人1チームで23チームが参加。相手チームのストーンの配置を読み、狙いを定めた場所にストーンを投じる参加者の姿は真剣そのものでした。

なお、上位入賞チームは次のとおりです(敬称略)。

- 第1位 よしはるチーム(高橋誠、戸澤良治、戸澤昌子)
- 第2位 下中野町チーム(大越達子、小林公子、梅川涼子)
- 第3位 いきいき大学Bチーム(熊谷徳、阿部正身、岡本孝一)



雁の里ライオンズクラブ 時野賢之輔会長(写真左)、利用者を代表しDVDプレーヤーを受け取る久米利夫さん(写真中央)



寄贈されたDVDプレーヤー

## 雁 後三年更生園へDVDプレーヤーを寄贈 の里ライオンズクラブ

雁の里ライオンズクラブ(時野賢之輔会長、会員21人)が3月23日、後三年更生園(進藤恭助園長、利用者60人)へDVDプレーヤー1台を寄贈しました。

この日は、同クラブを代表して時野会長が「今後もクラブの活動を通じて地域の皆さんとのふれあいを大切にし、奉仕活動をより一層深めていきたい」とあいさつ。また、利用者を代表して久米利夫さんが「私たちの活動に大切に利用させていただきます」とお礼のことばを述べました。

同園では今後、寄贈されたDVDプレーヤーを余暇活動などの時間に活用していくとのことです。



■第13回全県新人小学生バレーボール選抜優勝大会  
(3月10~11日、県営トレーニングセンター)  
女子の部 準優勝 美郷エスペランザ

■第2回美郷町ソフトテニスインドア大会  
(3月11日、美郷総合体育館リリオス)

- 男子の部 優勝 嶋村裕太(仙北高)、山上剛(大曲工高)
- 準優勝 武藤雅洋(美郷クラブ)、武田元春(同)
- 第3位 田村侑大(大曲工高)、今野伸二(大曲農高)
- 女子の部 優勝 柴田友紀(横手高)、水戸智春(美郷クラブ)
- 準優勝 本多真生(太田中2年)、高橋麻亜衣(同)
- 第3位 高橋亜弥(大曲高)、辻薫子(角館高)



美郷エスペランザの皆さん

(敬称略)

# 「簡単には勝たせてくれない。 そんなプロの世界で自転車を続けたい」



MISATOMATO

美郷町第1号となる功績者表彰  
インターハイ自転車競技1kmタイムトライアル全国優勝

県立六郷高等学校自転車競技部  
**田口 守さん**(善地鳥)



◀ 昨年8月に六郷自転車競技場などを会場に開催された全国都道府県対抗自転車競技大会でも力強い走りを見せた。

▲ 3月2日、六郷高校の校長室で関係者に見守られながら、松田町長から表彰状と記念品が手渡された。

真っ赤に色づいたトマトのように今が旬の人  
**みさとま**と

vol. 8

本町第1号の町功績者として、県立六郷高等学校3年(3月当時)の田口守さん(善知鳥)に3月2日、同校校長室において松田町長から表彰状が贈られました。

本表彰はスポーツ、文化、産業振興などの分野で活躍し、高い評価を受けた個人または団体に贈られるもので、田口さんは昨年、大阪府岸和田競輪場で開催された全国高校総合体育大会自転車競技において、1kmタイムトライアル全国優勝という快挙を成し遂げたほか、本町で開催された全国都道府県対抗大会同種目第2位や兵庫国体同種目第3位などの

成績を収め、ことし本町で開催される秋田わか杉国体自転車競技へ向けた機運の盛り上げに貢献しました。

表彰状を手にした田口さんは「これからはプロの競輪選手を目指すので、美郷町を代表する選手になって世界に羽ばたきたいと思います。これからも応援よろしくお願いします」とプロ競輪選手を目指す決意を述べました。この日、六郷高校を卒業した田口さんは、プロとして活躍する目標を胸に、4月から競輪選手の養成機関である日本競輪学校(静岡県伊豆市)で、鍛錬の日々を重ねます。

## 田口守さん紙上インタビュー

— インターハイで優勝したときの感想は？  
田口 最高にうれしかったです。ゴールした瞬間に目の前のスクリーンに自分の姿が写っているのを見て優勝を確信しました。それと同時に父が応援席から興奮気味に「マモ優勝だ！」と叫んでいたのを今でも鮮明に覚えています。

— 地元・美郷町で開催された全国都道府県対抗自転車競技大会の感想は？  
田口 あの大会が地元・美郷町で走る最後の大会でしたし、高校のクラスのみならずも応援に来てくれて、総合優勝をしましたが、自身は力が及ばず2位という成績でとても悔しい思いをしました。

— 高校卒業後は日本競輪学校に進みプロ競輪選手を目指しますが、田口さんにとってプロとは？  
田口 一言で表せば「戦国時代」です。年齢に関係なく、弱い人はプロの世界から去らなければならぬし、簡単には勝たせてくれない。そこで何年も自転車を続けていける人が本町のプロだと思います。

— 自転車競技を通じて得たことは？  
田口 恥ずかしいのですが、感謝しなければならぬという気持ちで18歳になって覚えたことです。いつも自分の周りには必ず支えてくれる人が何人もいるので、その人たちに感謝して、これからも自転車を続けていきたいです。

— 目標とする競輪選手は？  
田口 昨年、頂点に立った有坂直樹選手とスピードスケートから転向した武田豊樹選手です。有坂選手のように自分も頂点に立ちたい。そして、武田選手のようにレース上、どんな位置からでも逃げ切つて勝てる戦い方ができる選手になりたいと思います。

— ことしは美郷町で国体自転車競技が開催されますが、田口さんが思う見所は？  
田口 私自身もいろいろな地域でレースをしてきました。そしてその地域の人たちの声援の温かさがありました。町民の皆さんには秋田県選手だけではなく、他県の選手への声援をお願いしたいです。声援次第でスポーツの見所は増えてきます。秋田わか杉国体の時は、みんなで温かい声援をお願いします。